

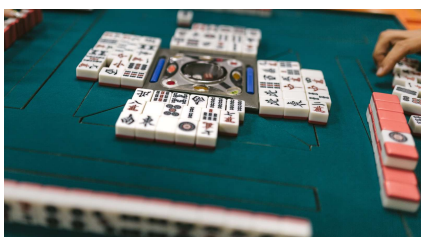
賭け麻雀と賭博罪 いくらから捕まるのか？



点ピンでは捕まらない？

少し前のことですが、東京高等検察庁の黒川弘務検事長の定年延長問題で政局が混迷する中で、黒川氏が、新聞記者と賭け麻雀に興じていたとの報道がありました。

報道によれば、賭けのレートは「点ピン」(1000点=100円換算)で、一晩に1~2万円が動いていたとのこと。この報道を受けて、黒川氏は辞表を提出し、法務省はこれを受理しました。「検察庁幹部が新聞記者と賭け麻雀をしていた」という事実に対して、国民からは強い批判が巻き起こりましたが、結局、法務省は、黒川氏に対して懲戒処分をせずに「訓告処分」に留めました。黒川氏らには、賭博罪での刑事告発がなされているようですが、ほぼ間違いなく不起訴処分、つまり事実上の無処分が終わるでしょう。



この対応に関しては、国民から「黒川氏は上級国民だから摘発されないのか？」といったような批判もありましたが、面白いのは、「点ピンのレートでは捕まらないという前例(=黒川基準)ができた！」という意見です。確かに、今後は、捜査当局も、点ピン以下のレート(=黒川基準以下)で摘発することは難しいでしょうね。しかし、実際のところはどうなのでしょう。無類の麻雀好き弁護士であるワタクシが解説していきたいと思えます。



過去の摘発例 蛭子さん事件

さて、過去に賭け麻雀で摘発された例として最も有名なのは、1998年の漫

画家の蛭子能収さんの事例ですね。蛭子さんは、新宿歌舞伎町のフリー雀荘で「リャンピン」(=1000点=200円換算)のレートで「東風戦」で打っていたところを警視庁の一斉摘発で逮捕され、最終的に罰金10万円の刑を受けたとのこと。麻雀をしない方向けに説明しますと、リャンピンというのは、点ピン(黒川基準)の2倍のレートで、「東風戦」というのは通常の「東南戦」の半分の時間で終わるルールです。オカ(トップ賞)・ウマ(順位点)・祝儀にもよりますが、一晩で10万くらいは動くこともあると思います。よほどの麻雀好きかギャンブラーでなければ打たないレートですね。それ以降、東京ではリャンピン東風戦のフリー雀荘は姿を消したというので、蛭子さんの事件の影響がいかに大きかったかを物語っています。こういった事例により、リャンピンのフリー雀荘は摘発されるというのが一般的な感覚として通用しているのではないのでしょうか。

では、点ピンのレートではどうでしょうか。実は、過去に、点ピンでも摘発されたフリー雀荘はあったようです。

ただ、通常の東南戦ではなく、ギャンブル性の高い東風戦で、ウマ(順位点)や祝儀も高かったとのこと。このルールでは通常の点ピンとはいえず、リャンピン東風戦のフリー雀荘と実質的に同レートであったといえる店のようです。

さて、これまではフリー雀荘の話ですが、仲間内で打つセット麻雀の場合は、バレなければ警察が動くことはないので、よほどの場合(例えば暴力団絡みの超高レート麻雀)でない限り、摘発されることはないでしょう。

賭け麻雀が摘発される基準は？

では、いったいどのレートから摘発され

るのでしょうか。コアな麻雀ファンの調査によれば、次のような結論のようです(「賭け麻雀はいくらから捕まるのか」津田 岳宏(著))。

- ①常識的範囲内のレートで遊ぶセット麻雀が摘発される可能性は0%に近い。
- ②通常の点ピンや点5(点ピンの半分)のレートのフリー麻雀も、摘発される可能性は非常に低い(ただし、可能性は0ではない。)
- ③それを超えるリャンピン、点ピン東風戦の場合は摘発される可能性が出てくる。

なぜ、このように曖昧なのでしょう。

これは、もはや明治時代以来の法律が悪いとしか言いようがありません。国営のギャンブルともいえる競馬・競輪などが自由にできる状況にあり、巷に溢れているパチンコ・スロットは「三店方式」という詭弁により賭博にあたらないと整理されているのですから、おかしな話です。

私は、賭博の刑事罰規定は、その存在自体が悪だと考えています。賭博罪規定があるからこそ、闇カジノや野球賭博などが暴力団の資金源になってしまっています。そして、極めて不明確な賭博罪規定により、賞金が出る e-sports 大会などの様々なイベントが開催しにくくなっています。私は、賭博罪規定が撤廃されることを強く望んでいます。

役満を狙わない後悔よりも狙って失敗する後悔を

今回は最初から最後まで麻雀の話題で行きたいと思います(皆さんの役に立つ話でなくてごめんなさい!)

写真が小さくて分かりにくいですが、この間抜けな顔の写真は、若い頃に友達の家で徹マンをやったときに、四暗刻を上がったときに撮ったものです。



意外に麻雀をしているときは熱中しているので、写真を撮らないもので、役満を上がったときの写真は、この1枚だけでした。

私は高校生の時に友達から麻雀を教わり(カモ要員とするため)、夢に出るほどのめり込みました。大学に入ってから、サークルの部室で面子を集めて夜な夜な麻雀に興じていましたね。

何とか落第せずに済みましたが、私の麻雀の成績は、学業(真ん中くらい)よりも良く、サークルではトップクラスだったと思います。ちなみに、サークルでのレートは、学生らしく、点3(1000点=30円換算)で、とても健全なレートです。とは言っても、お金のない学生時代には、数千円でも大きく、打ち筋を必死に研究していましたね(その努力を学業に向けていれば…と後悔することもしばしばです。)

麻雀はかなり打っている方ですが、これまでに上がった役満は比較的少ないのが残念なところです。私が上がった役満は、国士無双、四暗刻、大三元だけです。フリー雀荘で打っているときに、2半荘連続で同じ人から国士無双を上がったこともありました。

今でも後悔しているのが、オーラス2位で字一色小四喜のリャンシャンテンまで行った時に、その時は、トップを取

るために日和って混一色での上がりを目指してしまっただけですが、その後のツモで字一色小四喜をテンパっていたという情けないことに…。その時はチンケな勝ちを拾いたくて日和ってしまいましたが、今なら絶対にダブル役満を目指します。「役満を狙わない後悔よりも狙って失敗する後悔」の方が遙かに小さいことは間違いありません。

我が家には5人の子供がいるので、彼らが麻雀を覚えてくれれば、余裕で卓が立つのですが、ゲームばかりで麻雀に興味を示してくれず…。家族で卓を囲める日はくるのでしょうか。



古瀬法律事務所

TEL:011-213-1723

〒060-0061 札幌市中央区南1条西11丁目327番地27 ジュピタープレイス2階
地下鉄をご利用の場合:地下鉄東西線「西11丁目駅」2番出口から南へ徒歩3分

古瀬法律事務所 検索 <https://kose-law.net>

営業時間
平日9時~18時

